

⑳ 身近な自然を楽しむ 芦花公園内の大きな樹木
Enjoy the surrounding nature: Big trees in Roka Park

7/3/2023

吉野輝雄

芦花公園内には、多種多様な樹木が植えられている。木の種類により、季節の移り変わりと共に木の葉の色、繁り具合を変え、訪れる人々を大きく包み、癒してくれている。中には希少な木、名木、馴染みの木がある。また、園内に生息している生物の命をつなぐ場所にもなっている。今号は、その中でも大木と言える樹木を紹介する。

公園の西入口にクスノキ(楠)の巨木がある。常緑樹だが、春先に葉の一部が紅葉し若葉と入れ替わる。この事実と落ち葉であっても特有の香り(樟脳)がある事が散歩仲間の話題となっている。樹齢千年にもなり得る楠は、日本各地の名木として大事にされている。芦花恒春園内には、解説付きの名木コウヤマキ(高野槇)がある。隣接する樹木林内には徳富蘆花夫妻のお墓があり、入口には「名木百選」という木札があり、樹木が大切に管理されていることがわかる。

園内の樹木を見て行こう。健康体操が毎朝行われている広場にはケヤキ(欒)の大木、サワラ(榎)、イヌシデ(犬四手)が立ち、日陰と緑の空間を作っている。粕谷神社(八幡宮)境内には、巨大な欒と赤松、銀杏の木がそびえ立っている。赤松の幹と枝は、元旦には特別に赤く染まり、神々しい雰囲気を出す。それは新年を迎えた人の気持ちがそう見させているのか?考えたことがあったが、実は、元旦の頃の太陽の位置と光の角度が松の木を輝かせているという結論に至った。一方、夏の今、小さな花を大空に向けて咲かせるアオギリ(青桐)が満開だ。1945年夏に広島に投下された原爆の熱線を受けた4本の中3本が枯れずに翌年緑の葉を付け、混乱の中にあつた人々に生きる勇気と希望を与えた事で有名だ。

花の丘には、サクラ(高遠小彼岸桜)並木とハナチルサト(花散里)の大木が並んで立っている。その北方には、7月の今も新緑のままのモクゲンジ(木患子)と秋に簪(かんざし)に使える実を付けるカンレンボク(早蓮木)の大木がある。公園の東縁に降りるとポプラの樹が空高く伸びている。

公園の北側には、名にし負うエノキ(榎)の大木とシンジュ(神樹 Tree of heaven) (別名、ニワウルシ(庭漆))が堂々と立っている。その隣には、マテバシイ(全手葉椎)の木が並んでいる(馬刀葉椎とも書く)。最後は、エゴノキ(野茉莉・薔の木)。白かれんな花を鈴なりに咲かせることから花言葉は「壮大」。なお、果皮にエゴサポニン(しゃぼんの原語)が含まれ、セッケンノキとして古くから実用されていた。

その他にも園内には季節を彩る種々の樹木が生えている(すでに過去の号で紹介済)。

<http://www.sengawacx.com/FlowersAroundRokaPark.html>



- ・春に白い花を咲かせるコブシ(辛夷)、ハクレン(白蓮)、ハクウンボク(白雲木)、ハンカチの木、ハナミズキ(花水木)、ハリエンジュ(針槐)、ドウダンツツジ(灯台躑躅)。
- ・春を告げるロウバイ(臘梅)、紅梅・白梅、杏の木、春を謳歌する各種の桜(山桜、染井吉野、垂れ桜、八重桜など)。黄色の花を付けるマンサク(万作)、サンシユ(山茱萸)も。
- ・春爛漫の樹木:色とりどりの花を咲かせるツツジ(躑躅)やサツキ(臯)、シャクナゲ(石楠花)が園内に植えられている。梅雨前後には各種のアジサイ(紫陽花)が咲き乱れる。
- ・真夏に百日間も咲き続ける樹木:多様な色のサルスベリ(百日紅)、珍しい夏椿と姫沙羅。
- ・秋には、木の葉を赤や黄色に染めるモミジ(紅葉)、イチョウ(銀杏)が目を奪う。
- ・花よりも独特な実を付ける樹木:サンゴジュ(珊瑚樹)、水木(ミズキ)、イイギリ(飯桐)、トウカエデ(唐楓)。
- ・シイ(椎)、榎、檜の木は枝にたくさんの実を付け、野鳥や野生動物に餌を提供している。
- ・冬に咲く花は?茶の花、サザンカ(山茶花)、ツバキ(椿)。
- ・大木もある:プラタナス(スズカケノキ)、ユリの木。